

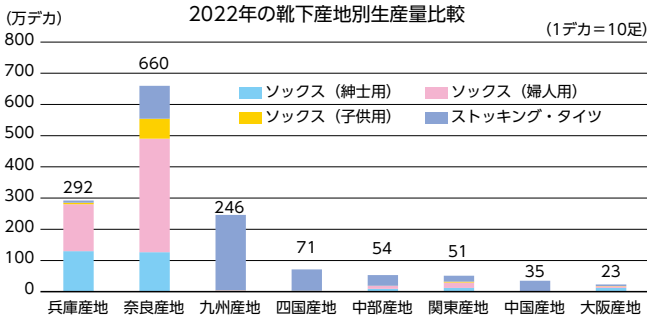


靴下

▼紳士用靴下の生産量は全国トップを維持

2022年の兵庫県産の靴下産業の規模は、企業数48社、従業員数780人、生産額は前年比5.1%減の51億円となり、産業規模の縮小傾向が続いている（兵庫県靴下工業組合）。

また、全国の靴下生産量は、1432万デカ（1デカ＝10足）と前年比5.9%の減少となっている。最大の生産地である奈良産地は660万デカ（前年比3.2%増）、第2位の兵庫産地は292万デカ（前年比3.3%減）だった。



(資料) 日本靴下工業組合連合会

品目別では、ストッキング・タイツは九州産地、ソックスは婦人用と子供用が奈良産地、紳士用は兵庫産地がそれぞれトップを占めた。兵庫産地では有名ブランド向けにOEM生産した紳士用靴下を百貨店や量販店に供給する商流があり、これが同生産量を長年全国トップレベルに保つ主要因となっている。

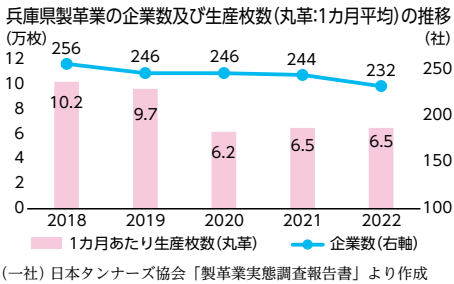
皮革

▼皮革産業の現状と振興に向けた取り組み

兵庫県の皮革産業は、靴、鞆などの革製品（二次製品）の素材となる「革」（一次製品）の製造が中心で、主な産地は姫路市、たつの市、川西市などである。

（二社）日本タンナーズ協会の「製革業実態調査報告書」によると、2022年度の兵庫県の状況は、企業数が232社と全国の約8割、成牛革（丸革）の生産枚数が1カ月あたり約6.5万枚と同5割以上を占めている。しかし、近年は海外の技術の向上や安価な海外産の流通により、生産枚数は2018年と比べて減少している。

兵庫県皮革産業協同組合連合会は、兵庫県の支援を受け、ニューレザークンテスト、国内有名ブランドとタイアップしたプロモーション、東京レザークンフェアをはじめ、各種展示会への出展などを行い、ひょうご天然皮革のブランド化を進めている。23年11月にはたつの市と合同で「ひょうご皮革総合フェア2023 & 第30回たつの市皮革まつり」を開催し、全国一の生産高を誇る兵庫産の天然皮革のPRを行なった。たつの市産業部商工課によると、来場者は約2.8万人とコロナ前（19年約2.6万人）を上回った。



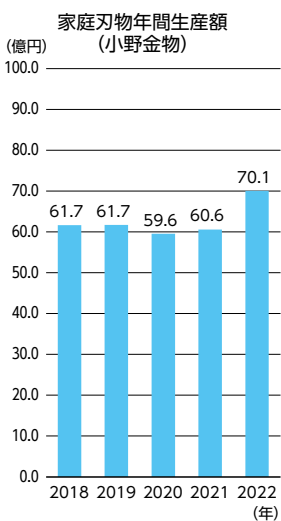
(一社) 日本タンナーズ協会「製革業実態調査報告書」より作成

家庭刃物(小野金物)

▼ブランド化で売上回復

小野は、三木と並び播磨の金物産地である。三木が主に大工道具で栄える一方、小野は剃刀（かみそり）、鋏（はさみ）、包丁など家庭用刃物の産地として江戸時代に興った。裁縫に使われる握りばさみ（和鋏）は、今でも伝統製法を受け継ぐ職人を擁する国内有数の産地である。明治期以降、2枚の金属を交差させて切る洋鋏が主流となり、生地を裁断するラシャ切鋏、華道で使われる池ノ坊鋏、庭木を切る剪定鋏、散髪鋏などが生産されるようになり、その地位を確立した。

2018年以降生産額は減少傾向だったが、地域ブランド「播州刃物」が軌道に乗り、22年は70億円まで回復した。「播州刃物」は、職人の高齢化に危機感を持った小野金物卸商業協同組合の組合員が13年に地元出身のデザイナーと起こしたブランドである。同デザイナーは、このほか後継者職人を育成する工房を小野に開設し、工作機械を引退する職人から譲り受けて、海外で人気の「富士山ナイフ」を開発、売り上げは職人の育成に活用されている。



(資料) 2018～20年は兵庫県HP「家庭刃物(小野金物)」、21年、22年は北播磨県民局資料より作成